

申命記 17回
「第1戒と第2戒」
申5:6~10

1. はじめに

(1) 申命記の構造(宗主权契約に基づく4つの説教)

①第1の説教:歴史の回顧(1:5~4:43)

②第2の説教:契約に基づく義務(4:44~26:19)

*総論:臣下の義務(4:44~5:33)

*全的従順の呼びかけ(6~11章)

*律法の解説と日常生活への適用(12:1~26:15)

*【主】に対する誓約(26:16~19)

(2) シナイ山での契約締結とモアブの地での契約更新の対比

①シナイ山での契約締結では、恐ろしい光景が展開された。

②モアブの地での契約更新では、恵みと希望に満ちた光景が展開された。

③申5:6以降で、律法の内容が解説される(613の命令)。

④最初に出て来るのは、十戒である。

(3) モーセの律法に関して混乱がある。

①土曜日の礼拝を主張する人たちがいる。

②律法そのものを悪と見る人たちがいる。

③旧約は終わったのだから、新約だけを読めばいいと言う人たちがいる。

④モーセの律法に関する誤解を解く必要がある。

2. メッセージのアウトライン

(1) 第1戒(5:6~7)

(2) 第2戒(5:8~10)

3. 結論:モーセの律法の7つの側面

第1戒と第2戒について学ぶ。

I. 第1戒(5:6~7)

1. 6節

Deu 5:6 「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、【主】である。

(1) 6節は、第1戒だけでなく、十戒全体を理解するための鍵である。

- ①イスラエルの民と契約を結ぶのは、知らない神ではない。
- ②アブラハム、イサク、ヤコブの神である。
- ③その御名は【主】である。
- ④イスラエルの民をエジプトから救った神である。

*申命記では、エジプトは頻繁に「**奴隸の家**」と呼ばれる。

(2) 6節は、先ず恵みがあり、次に律法があることを示している。

- ①【主】はイスラエルを救われた。
- ②律法は、愛によって【主】に応答する方法として、イスラエルに与えられた。

2. 7節

Deu 5:7 あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。

(1) 第1戒は、正しい神学を持ってという命令である。

- ①すべての神学が正しいわけではない。
- ②しかし、神学なしに正しい信仰を持つことはできない。

(2) 神は唯一であるということを認めることが信仰の第一歩である。

- ①申4:35

Deu 4:35 あなたにこのことが示されたのは、【主】だけが神であり、ほかに神はいないことを、あなたが知るためであった。

*イスラエルの民は、シナイ山でシャカイナグローリーを体験した。

- ②イザ43:10~11

Isa 43:10 あなたがたはわたしの証人、／——【主】のことば——／わたしが選んだわたしのしもべである。／これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、／わたしがその者であることを悟るためだ。／わたしより前に造られた神はなく、／わたしより後にも、それはいない。

Isa 43:11 わたし、このわたしが【主】であり、／ほかに救い主はいない。

*自分のすべてと、生活の全領域を、【主】に捧げるべきである。

*イスラエルの民の使命は、神が唯一であることを諸国民に示すこと。

(3) 「**ほかの神**」とは、テクニカルタームである。

- ①これは、異教の神々である。
- ②実体はないが、偶像の形で存在している。
- ③また、それを礼拝する人々の心の中に存在している。

II. 第2戒(5:8~10)

1. 8~9節 a

Deu 5:8 あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。

Deu 5:9a それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、【主】であるわたしは、ねたみの神。

- (1) 第2戒は、真の礼拝とは何かを教えている。
 - ①神は、被造世界を超越している。
 - ②それゆえ、神を目に見えるもの(被造物)で表現することは不可能である。
 - ③偶像を造ると、被造物を拜むという結果を招くことになる。
- (2) 第2戒は、芸術活動を禁止しているわけではない。
 - ①礼拝のための像を造ることは禁止しているが、それ以外の像は除外される。
 - ②モーセは幕屋の中で用いるために、ケルビムの織物や像を造った。
- (3) 「【主】であるわたしは、ねたみの神」

①イザ 54:5~6

Isa 54:5 なぜなら、あなたの夫はあなたを造った者、／その名は万軍の【主】。／あなたの贖い主はイスラエルの聖なる者、／全地の神と呼ばれているからだ。

Isa 54:6 【主】はあなたを、／夫に捨てられた、心に悲しみのある女と呼んだが、／若いころの妻をどうして見捨てられるだろうか。／——あなたの神は仰せられる——

- *イスラエルの民は、【主】の妻である。
- *偶像礼拝は、靈的姦淫である。
- *【主】は、夫が妻に関して嫉妬するように、背信の民に対して嫉妬する。

- ②このねたみは、健全なものである。
- ③【主】は、ご自身の栄光を偶像に渡すことはない

2. 9b~10節

Deu 5:9b わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、

Deu 5:10 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

- (1) 「父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし」
 - ①父の罪のゆえに子が罰を受けることはないというのが、聖書の教えである。
 - ②「わたしを憎む者」とは、「子」である。
 - ③子は、父の悪影響を受け、【主】に敵対するようになる。
 - ④この聖句は、先祖の罪の悪影響が子孫に及ぶということを教えている。

⑤【主】は、それを三代か四代でとどめてくださる。

(2) 「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す」

①先祖の良い影響が子孫に及ぶということ。

②その場合は、それが長く続くということ。

結論：モーセの律法の7つの側面

1. 救いの方法ではない。

(1) イスラエルの民は、すでにエジプトから解放されている。

(2) 神に選ばれたことを土台として、モーセの律法が与えられた。

(3) もしこれが救いの方法であるなら、それは「業による救い」となる。

(4) 恵みと信仰による救いが、聖書を貫く唯一の救いの方法である。

(5) 創15:6

Gen 15:6 アブラムは【主】を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

2. 神が聖であることを示す。

(1) 民は、神の力と守りを経験したが、神の性質については無知であった。

(2) 613の律法を読み進むと、神がいかに聖なるお方であるかが分かる。

(3) レビ11:45が、モーセの律法を中心である。

Lev 11:45 わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した【主】であるからだ。あなたがたは聖なる者とならなければならない。わたしが聖だからである。」

3. 旧約時代の聖徒たちの行動基準である。

(1) 神によって召された国民として行動基準が必要である。

(2) 旧約時代の聖徒たちにとっての信仰表現とは、モーセの律法に従うこと。

(3) 真の信仰は、律法を行うことによって証明される。

(4) アブラハムがイサクを捧げたのも、同じ意味である。

4. 人の罪を示す。

(1) ロマ3:20

Rom 3:20 なぜなら、人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。

(2) 律法が悪いわけではない。

①問題は、人の内側にある罪の性質である。

5. 人にもっと罪を犯させる力となる。

(1) ロマ4:15

Rom 4:15 実際、律法は御怒りを招くものです。律法のないところには違反ありません。

①罪の性質はあっても、律法がなければ律法違反ということが成り立たない。

(2) ロマ7:7

Rom 7:7 それでは、どのように言うべきでしょうか。律法は罪なのでしょう。決してそんなことはありません。むしろ、律法によらなければ、私は罪を知ることはなかったでしょう。実際、律法が「隣人のものを欲してはならない」と言わなければ、私は欲望を知らなかったでしょう。

①律法は悪でも罪でもない。

②律法によって、人の罪の性質が活動を始めるのである。

③律法が、罪の性質が働く土台となった。

④律法が与えられたので、罪の性質は暴君のようになって暴れ出した。

6. 人を信仰に導く。

(1) ガラ3:23~24

Gal 3:23 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。

Gal 3:24 こうして、律法は私たちをキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。

①律法は、業による救いが不可能であることを示す。

②その結果、信仰による救いを求めるようになる。

③最終的には、キリストに対する信仰へと導かれる。

④旧約時代の聖徒たちは、血の犠牲の必要性を認識するようになった。

7. すでに終わった。

(1) モーセの律法は統一体である。

①全部終わったか、全部残っているかのどちらかである。

②祭儀法と民法とは終わったが、道徳法は今も有効であるとの主張がある。

③しかし、モーセの律法の分割は不可能。

④一部が今も有効であるという主張には、聖書的根拠がない。

(2) ロマ10:4

Rom 10:4 律法が目指すものはキリストです。それで、義は信じる者すべてに与えられるのです。信じる人はみな義と認められるのです」

①キリストは律法の要求を満たされた。

②つまり、律法が目的としていたことが成就したので、その効力が消えた。

(3) ガラ3:19

Gal 3:19 それでは、律法とは何でしょうか。それは、約束を受けたこの子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたものです。

①一時的に与えられたもの

②子孫(メシア)の登場とともに終わる。

(4) ヘブ7:12

Heb 7:12 祭司職が変われば、必ず律法も変わらなければなりません。

①モーセの律法を運用する土台は、レビ族から出た祭司である。

②ヘブル人への手紙が論じている祭司とは、メシアであるイエス。

③イエスは、レビ族ではなく、ユダ族から出ている。

④祭司職が変わった(メルキゼデクの位の祭司)。

⑤それゆえ、律法も変わらねばならない。

⑥新しい律法とは、「キリストの律法」である。

質問への回答

「最近、オンラインの礼拝にある疑問が浮かんできました。それは、オンラインで祈る祈りに聖霊は臨んでいるのか、オンラインの礼拝に聖霊の祝福はあるのかという点です。…画面越しの礼拝や、祈禱会の中に、どうしても霊的な喜びを感じられません」

(1) オンライン礼拝そのものは、悪ではありません。

(2) オンライン礼拝には、欠点と長所があります。

①信者の交わりができないというのが、最大の欠点です。

(3) 長所はいろいろあります。

①政府の要請に敬意を表することができます。

②パンデミックから身を守るための知恵です。

③普段教会に来ない人たちに語りかけることができます。

④過去のメッセージをアーカイブに保存することができます。

(4) オンライン礼拝にも神の祝福があります。

①神は、時間と空間を超越した方です。

②過去のメッセージによって救われる方が出ます。

③ヨハ4:24

Joh 4:24 神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」